

キンダーホルトの畑づくり… 堆肥を運び込む

g-farm

グループファーム協会の

<http://g-farm.net/>

愛知県長久手町武蔵塚101

090-5153-2880 (湯本)

市民農園などでの地域の仲間づくり活動を、児童養護施設の子どもたちとともに実施するのが私たちの目的です。
この延長上に、自分たちの農場(グループファーム、里親農園)を建設する夢を描いています。



堆肥4トンを届けてもらいました。
畑の近くまで、この堆肥を移動させます。



リヤカーに乗せて運びます。
いまとなっては、珍しい風景ですね。



運び込んだ堆肥の上で遊んでいた子どもたちが
リヤカーが来たので駆け寄ります。



小さな子もいっしょになって頑張ります。
なかなかやるものです。



こういう仕事は子どもたちは好きなんですわね。
堆肥は、暖かくなってふかふかです。



最後はきれいに掃除して、水で流します。
あっという間の出来事でした。



運び込んだ堆肥の上にシートをかぶせ、
あーおもしろかった。

●私の願い 子どもたちと一緒に堆肥を選んで

きのうの堆肥搬入、2トンのつもりが、4トンくらいはあり、こりゃあ大変だと思ったが、意外なほど早く作業は完了した。ズッキーニとアスパラの苗も、子どもたちと一緒に植えることができた。子どもたちがそれぞれにそれぞれなりの楽しさを自分で見つけ出して、積極的に作業に加わってくる。これは毎回そうだけど、その度に驚きを感じる。

写真を見てもらえば分かると思うけど、この楽しさを一緒に体験できるのは、本当にありがたい貴重なことだ。喜びの満ちあふれる世界が、ここに出現しているのだと思う。そして、この世界を、もっとたくさんの人が体験できるようになるといいなあと思う。

それぞれの人が、それぞれに楽しく動き働く世界が理想だけど、それは、のびのびと育った子どもたちの動きから始まるのじゃないだろうか。子どもたちの、それぞれの生き生きとした動きによって、新しい地域社会は活力を与えられるのじゃないだろうか。

子どもが元気に飛び跳ねる姿、おとなが働く姿、それらを眺めている老人の姿。これらが一つに解け合う世界が、人のすむ世界なのだろう。人のすむ世界を取りもどしたいなあ。

市民農園で、多くの人たちと、このような世界を一緒に作っていけないだろうか。できそうな気がするのだけど、できる範囲からスタートしよう。そして、その姿を多くの人に見てもらおう。あちこちで、同じような試みが増えることを願いながら。(yamoto)